



慶應義塾大学ビジネス・スクール

簿記一巡の手続

5

1 簿記一巡の手續

簿記の手續の詳しいことは、次回以降の講義で詳述するが、できるだけ早い段階で全体像をつかめるように、非常にシンプルな例で一通りの手続きを示しておきたい。ここでは、簿記一巡の手続きの雰囲気がわかれればいいので、細部にこだわらず、ザッと目を通してほしい。

期中には、企業のビジネス活動のうち、会計上の記録が必要とされるものを選び、複式記入のルールにしたがって、データ入力する。この複式記入のルールにしたがったデータ入力が仕訳(journal entry)である。仕訳が終わったら、そのデータにもとづいて、総勘定元帳と呼ばれるデータベースへ書き写す。仕訳データを総勘定元帳に書き写すことを転記(posting)という。期末には、総勘定元帳のデータをもとに財務諸表を作成することになる。

具体的な例を見てみよう。次の日吉運送店の取引を複式簿記で記録するものとする。

1. 4月1日、資本金100百万円の現金出資を受けて、日吉運送店株式会社を設立した。
2. 6月12日、綱島銀行から50百万円の現金融資を受けた。
3. 9月1日、トラックを賃借し、賃借料5百万円を現金で支払った。
4. 9月1日、賃借したトラックに保険をかけ、保険料1百万円を現金で支払った。
5. 2月15日、元住吉工務店からの依頼で資材を運搬し、代金7百万円を現金で受け取った。

この例で単位が「百万円」となっているのは、会計の世界では、数字は3桁ずつ位取りすることになっているからである。「100百万円」は「1億円」を意味する。なぜ、こんなわかりにくいくらいことをするかというと、英語が、千(thousand)、百万(million)、十億(billion)と位取りするため、それにあわせてあるのである。日本語では、万、億、兆、京、垓と4桁ずつ位取りするので、こ

本ケースは、慶應義塾大学ビジネス・スクール准教授太田康広が複式簿記の演習問題として作成した。ケース中の企業は架空のものである。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 太田康広 (2009年1月作成)

の3桁位取りルールは日本語の生理にあわない。しかし、3桁位取りルールが実務上の慣行であるので、我慢して慣れるようにするしかないだろう。

これら5つの取引の仕訳をするにあたって、仕訳のルールを簡単に説明しよう。仕訳には、最低限、4つの項目が必要である。借方科目、借方金額、貸方科目、貸方金額の4つである。これに加えて、取引が行なわれた日付も書くことが多いので、実際には、5つの項目を記入することになる。具体的には、

日付	(借)	借方科目	借方金額	(貸)	貸方科目	貸方金額
----	-----	------	------	-----	------	------

という形式をとる。借方金額と貸方金額には取引に関連する金額が入力される。仕訳が1行だけ終わる場合、借方金額と貸方金額はつねに等しくさせる。仕訳が複数行になる場合にも、借方金額の合計と貸方金額の合計を必ず一致させる。

借方科目と貸方科目には、現金、借入金など、勘定科目 (account: a/c) と呼ばれる項目名が記載される。勘定科目は、記録の単位となる項目であって、原則として、資産、負債、資本、収益、費用のいずれかに属している。

仕訳の本格的なルールについては、次回以降、詳細に説明する。この例では、取引に必ず現金が現れるので、現金に関するルールだけ覚えておけば、仕訳が切れる¹。現金という勘定科目、すなわち現金勘定が現れたときには、次のように処理すればよい。

現金が増えたら借方（左側）、現金が減ったら貸方（右側）。

この現金勘定の処理のルールに徹底的になじんでおくと、あとで、本格的な仕訳のルールがでてきたときに、わりあい簡単にはじめるだろう。

上の取引例で必要とされる勘定科目は、現金（資産）のほか、資本金（資本）、借入金（負債）、賃借料（費用）、支払保険料（費用）、売上（収益）である。

ここで、資本金や借入金といっているのは、資本として拠出された金額、借り入れた金額という意味であって、資本金や借入金という名前のお金があるわけではない。資本拠出されたお金や借り入れたお金は、資本金や借入金ではなくて、現金勘定（または預金勘定）で処理される。会計は、江戸時代以来の長い歴史を背負っているので、概して表現が古めかしい。「〇〇金」というのは「〇〇額」の意味である。たとえば、資本金というのは資本の額、借入金というのは借入額のことである。また、古くは、送りがなを省く慣行があったので、勘定科目名では原則として送りがなを振らないことになっている。「借り入れ金」ではなくて「借入金」と書く。ただし、このルールの例外として「預り金」がある。送りがなを省くと預金と区別できなくなってしまうからである。

¹ 仕訳をすることを「仕訳を切る」ということがある。

さて、実際に、仕訳を切ってみよう。

1. 4月1日、資本金100百万円の現金出資を受けて、日吉運送店株式会社を設立した。

4/1 (借) 現 金 100 (貸) 資 本 金 100

この仕訳の金額の単位は百万円である（以下の仕訳でも同様）。「現金が増えたら借方」のルールどおり、借方科目は現金である。ここでは、株主の出資金額は、資本金勘定で受ける。いうまでもなく、現金は資産、資本金は資本の勘定である。なお、この仕訳の現金勘定からみた資本勘定、および、資本勘定からみた現金勘定のことを相手勘定^{あいてかんじょう}という。つまり、相手勘定とは、ある仕訳のある勘定からみて、貸借反対側に現れる勘定科目のことである。

5

10

2. 6月12日、綱島銀行から50百万円の現金融資を受けた。

6/12 (借) 現 金 50 (貸) 借 入 金 50

ここでも、「現金が増えたら借方」に書くというルールにしたがう。借入金は負債の勘定である。

15

3. 9月1日、トラックを賃借し、賃借料5百万円を現金で支払った。

9/1 (借) 賃 借 料 5 (貸) 現 金 5

ここでは、「現金が減ったら貸方」のルールにしたがう。ここで、賃借料は費用の勘定である。

20

4. 9月1日、賃借したトラックに保険をかけ、保険料1百万円を現金で支払った。

9/1 (借) 支 払 保 険 料 1 (貸) 現 金 1

ここでも「現金が減ったら貸方」である。支払保険料は費用である。

わざわざ「支払」保険料というのは、保険料を受け取って収益になるケースがあるからである。収益の保険料を受取保険料といい、費用の保険料を支払保険料といって区別する。保険料のほか、利息、割引料、家賃、地代、リース料なども、紛らわしい場合には「受取」と「支払」を区別する。もっとも、保険料を受け取る企業は比較的少ないので、何もついていない保険料は支払保険料に決まっていると考えて「支払」を省くことが多い。

25

5. 2月15日、元住吉工務店からの依頼で資材を運搬し、代金7百万円を現金で受け取った。

2/15 (借) 現 金 7 (貸) 売 上 7

30

sample sample sample sample

この取引もやはり「現金が増えたら借方」というルールにしたがう。売上勘定は収益の勘定である。

仕訳が終わったら、次は転記である。すでに述べたとおり、転記とは、仕訳データを総勘定元帳へ書き写すことである。総勘定元帳には、各勘定ごとにデータを記録する場所が準備されている。
5 このデータを記録する場所のことを勘定口座といふ。勘定口座を、概念的に一番簡単な形式で表わすと図1のようになる。この形式は、縦の線と横の線の配置が、漢字の「丁」の字やアルファベットの“T”の字に似ているので、丁勘定、T勘定(T form)などと呼ばれる。

10

現金		
売上	300	貸付金
借入金	1,000	500

図1 丁勘定の例（現金勘定）

15 この勘定口座に、その勘定科目の金額の増減がすべて記述されることになる。包括的な転記のルールは、次回以降学ぶこととして、ここでは現金勘定の転記の方法を説明し、それから類推してほかの勘定の転記も行なうこととしよう。

20

勘定や口座というのは、何かを区別して記録しておく場のようなものである。実は、我々が持っている銀行口座というのは、銀行が我々の資金の動きを記録するために準備した勘定口座にほかならない。また、お金の動きを記録するものではないが、コンピュータ・システム上、ある人の情報を記録する場もアカウント（勘定）という。メール・アカウントは、そのアカウントの持ち主のメールを記録する場所のことである。会計のことを英語でアカウンティング(accounting)というが、この語には、勘定をつくって何かを記録し、結果を集計して報告するというニュアンスがある。

25

まず、はじめの仕訳を転記することを考える。

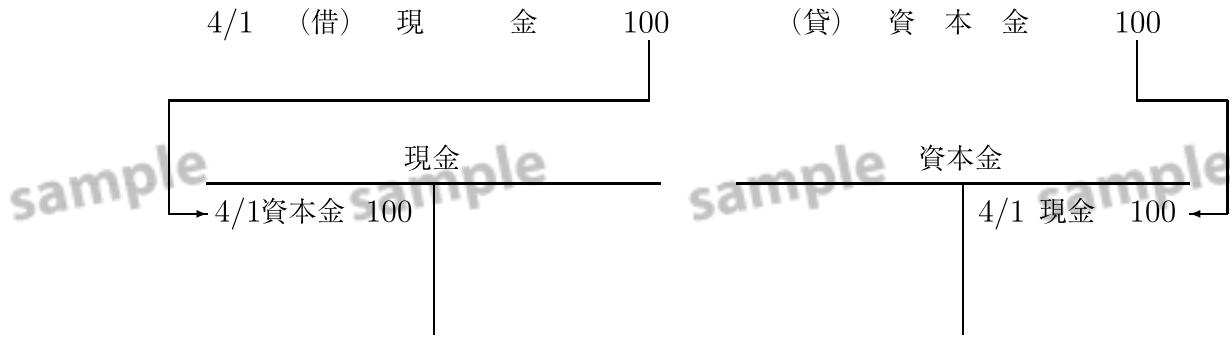
1. 4月1日、資本金100百万円の現金出資を受けて、日吉運送店株式会社を設立した。

4/1 (借) 現 金 100 (貸) 資 本 金 100

30 この仕訳の借方は、現金勘定が100百万円増えたことを表わし、貸方は資本金勘定が100百万円増えたことを表わす。これを現金勘定と資本金勘定に転記する。まず、現金は100百万円増えているので、現金勘定の借方に100と書く。そして、数字の前に、取引が行なわれた日付、4月

1日と、相手勘定の名前、資本金とを書きこむ。この仕訳では、現金が100百万円えると同時に資本金も100百万円増えている。次回以降、詳しく説明するが、資本金など、資本に属する勘定は、増えたとき貸方に、減ったとき借方に記入する。このルールは、現金が増えるとき、資本金も増えることから、自然に覚えられるであろう。資本金勘定の貸方に、日付、相手勘定、金額として、「4/1 現金 100」と書く。以上の転記を図にすると、図2のようになる。

5



10

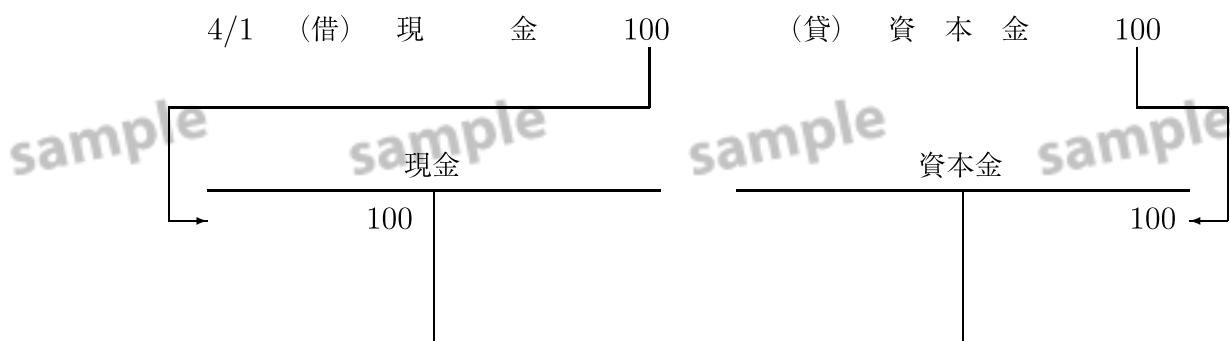
図2 転記の一例

ここで、仕訳と転記で貸借が逆になるような印象を持って混乱する人が多い。上の例でいうと、仕訳のときには、借方に現金と書き、貸方に資本金と書くのに、転記するときは、現金勘定の借方に資本金と書き、資本金勘定の貸方に現金と書くことになるので、現金や資本金という勘定科目名を書く欄が貸借逆になるからである。

15

この点については、勘定口座に転記される情報のうち、本質的な部分は金額だけだと考えればよい。極論するなら、日付や相手勘定名は、たんなるメモである。実際、転記の本質は、図3のように図示したほうが明瞭になるだろう。

20



25

図3 最小限の転記

30

この金額だけ書く方式だと、仕訳がデータ入力で、転記がデータベースへの登録だということ

が明らかになってわかりやすい。わかりやすいが、金額しか書かないのでは、後からチェックするときに不便である。どういう取引の結果、現金が増えたのか、またそれがいつ生じたのかわからなくなってしまうからである。以下、本則どおり、日付と相手勘定名を書いていくことにしよう。実務においては、各種のコードを使って、総勘定元帳から仕訳や証憑²などを後から追跡できるようにするのが一般的である。

それでは、先ほどの5つの仕訳を転記することにしよう。転記する仕訳は次のとおりである。

	4/1	(借)	現金	100	(貸)	資本金	100
	6/12	(借)	現金	50	(貸)	借入金	50
10	9/1	(借)	賃借料	5	(貸)	現金	5
	9/1	(借)	支払保険料	1	(貸)	現金	1
	2/15	(借)	現金	7	(貸)	売上	7

以上の仕訳を転記すると次のようになる。

		現金		借入金			
15	4/1 資本金	100	9/1 賃借料	5		6/12 現金	50
	6/12 借入金	50	9/1 支払保険料	1			
	2/15 売上	7					
		資本金		売上			
20		4/1 現金	100		2/15 現金	7	
		賃借料		支払保険料			
25	9/1 現金	5		9/1 現金	1		

通常、資産と費用の勘定は、借方合計のほうが貸方合計よりも大きい。借方合計のほうが貸方合計よりも大きいとき、借方残といい、借方合計から貸方合計を引いた金額を借方残高という。

² 証憑とは、たとえば、領収証や送り状などの、取引の証拠書類のことである。

これに対して、負債、資本と収益の勘定は、貸方合計のほうが借方合計よりも大きい。貸方合計のほうが借方合計よりも大きいとき、^{かしかたざん}貸方残といい、貸方合計から借方合計を引いた金額を貸方残高という。

各勘定の借方合計と貸方合計を集めた財務表を合計試算表といい、すでに述べたように、各勘定の残高を集めた財務表を残高試算表という。そして、合計試算表と残高試算表を1つにまとめたものを合計残高試算表と呼ぶ。この取引例の3月31日現在の合計残高試算表は図4のようになる。

5

10

15

合計残高試算表				
平成xx年3月31日				
借方残高	借方合計	勘定科目	貸方合計	貸方残高
151	157	現金	6	
		借入金	50	50
		資本金	100	100
		売上	7	7
5	5	賃借料		
1	1	支払保険料		
157	163		163	157

図4 合計残高試算表

合計残高試算表の借方合計と貸方合計が一致し、借方残高と貸方残高が一致しているのを確認しておこう。仕訳において、つねに借方合計と貸方合計が等しくなるようにデータ入力しているわけであるから、借方合計と貸方合計、借方残高と貸方残高は、原理的につねに一致する。もし、一致していなければ、記録まちがい、移しまちがい、計算まちがいなど、どこかに何らかのまちがいがあるはずである。これが複式簿記の計算チェック機能である。

20

感覚的には、この残高試算表からストック項目だけを集めれば貸借対照表になり、フロー項目だけを集めれば損益計算書になる。そして、貸借対照表の貸借差額が当期純利益になり、その金額は、損益計算書の貸借差額の当期純利益と一致するはずである。この手続きを帳簿上できちんと行なうのが決算手続である。

25

決算手続を行なうにあたり、まず、フローの勘定は、次の会計年度（次期）に繰り越してはいけないことに注意する。たとえば、当期の売上はあくまでも当期の売上であって、次期にはまったく繰り越さない。次期の売上は、また、ゼロからスタートすることになる。これに対して、ストックの勘定は、次期に繰り越す必要がある。たとえば、期末の現金在高は、期首の現金在高と

30

sample

sample

sample

sample

sample

一致しなければならない。よって、決算手続のなかで、ストック項目の期末残高を次期に繰り越すことになる。

決算手続では、ストックの勘定より先にフローの勘定を処理する必要がある。これは、フローの勘定を処理した端数がストック項目になるため、フローの勘定より先にストックの勘定を処理できないからである。フローの勘定の処理では、すべての収益・費用の勘定をリセットするため、損益勘定と呼ばれる特別な勘定を作り、この勘定に、すべての収益・費用の勘定の残高を流し込む。この作業を振替^{ふりかえ}という。

振替の手続きは、通常どおり、仕訳と転記を通じて行なわれる。まず、収益の勘定残高をすべて、損益勘定に振り替える。ここでは、収益は売上勘定のみである。

10 3/31 (借) 売 上 7 (貸) 損 益 7

次に、費用の勘定の残高をすべて損益勘定に振り替える。

3/31 (借) 損 益 6 (貸) 貸 借 料 5

支払保険料 1

15 これら 2 つの仕訳を転記すると次のようになる。

売上		賃借料	
3/31損益	7	2/15 現金	7

20

支払保険料		損益	
9/1 現金	1	3/31 損益	1

25

以上の振替仕訳を転記すると、フローの勘定は貸借が一致する。そこで、合計を計算し、その下に二重線を引いて、当期の記録を終わりにする。この作業のことを、勘定を締め切るという。

近年、会計データをコンピュータで処理することが多いので、記帳上の細かい約束は、あまり重要ではなくなってきているが、簿記検定を受験する場合など、学習簿記上の規約を知らないと減点されるケースがあるので、一応、述べておこう。学習簿記上は、複数行にまたがる場合は、一本線を引いてから、別の行に合計を書いて、その合計金額の下に二重線を引く。1 行の場合は、わ

sample

sample

sample

sample

sample

ざわざ別に合計を計算する意味がないので、1つしかない行の数字の下に二重線を引くのが決まりである。一般に、簿記上、金額欄の二重線は合計を意味することが多いが、厳密には、二重線より上の数字は二重線より下の計算に影響を与えないということを意味する。

振替仕訳と転記によって、収益、費用の勘定はすべて締め切ることができるが、損益勘定は貸借が一致していないので締め切ることができない。実は、この損益勘定の貸借差額こそが当期純利益である。当期純利益は、当期の損益取引による資本の増加額（フロー）であるが、いったん計算されたあとは、資本のストック項目となる。そこで、資本の勘定として、新たに繰越利益剰余金勘定を設け、そっちに振り替えておくことになっている。この仕訳は次のようになる³。

3/31 (借) 損 益 1 (貸) 繰越利益剰余金 1

5

10

この振替仕訳を転記すると、損益勘定の貸借が一致するので、損益勘定を締め切る。具体的には、次のようになる。

損益		繰越利益剰余金	
3/31賃借料	5	3/31 売上	7
3/31支払保険料	1		
3/31繰越利益 剰余金	1		
	7		7

15

損益勘定の貸方側の余白に斜線を引くのは、あとから改竄されるのを防ぐためである⁴。なお、締め切られた損益勘定が、ほとんど損益計算書と同じ情報を示していることに注意しよう。実際、繰越利益剰余金を当期純利益におきかえれば、ほとんど勘定式の損益計算書そのままである。この損益勘定を参照しながら、損益計算書を作成すると、図5のようになる。

20

25

会計学者の中には、損益計算書では、当期純利益という科目名とその金額は朱書き（赤字で書くこと）しないといけないという人もいる。実務上は気にする必要はないが、学習上は気にしておいたほうがいいかもしれない。図5では、ゴシック体で表記した。また、ここで、単位を百万とすると、数字が1桁となり、あまりに概算数値にすぎるので、単位を千円に変えてみた。

25

以上で、フローの勘定の締め切りは終了である。次に、資産、負債、資本のストック項目の締め切りをすることにしよう。この例におけるストック項目は、現金、借入金、資本金の勘定と、損益勘定を締め切るときに作った繰越利益剰余金勘定の4つである。これらの勘定は、期末に締め切っ

30

³ 従来は、繰越利益剰余金勘定の代わりに、未処分利益勘定（未処理損失勘定）を使うのが一般的であった。

⁴ コンピュータで処理する場合には、ルールどおりに斜線を引く必要はないが、あとから改竄されないようにソフトウェアをデザインしておく必要がある。

sample

sample

sample

sample

sam

損益計算書

平成 xy 年 4 月 1 日から
日吉運送店 平成 xx 年 3 月 31 日まで (単位 : 千円)

費 用	金 額	収 益	金 額
賃 借 料	5,000	売 上	7,000
支 払 保 険 料	1,000		
当 期 純 利 益	1,000		
	7,000		7,000

5

10

図 5 損益計算書

15

て、期末残高を次期に繰り越す。翌日には、次期が始まるので、当期から次期への繰り越し分を翌日の日付で「前期繰越」と書いておけば、翌日の手間が省ける⁵。具体的には次のようにする。

20

25

現金

4/1 資本金	100	9/1 賃借料	5
6/12 借入金	50	9/1 支払保険料	1
2/15 売上	7	3/31 次期繰越	151
	157		157
4/1 前期繰越	151		

借入金

3/31 次期繰越	50	6/12 現金	50
4/1 前期繰越	50		

資本金

3/31 次期繰越	100	4/1 現金	100
		4/1 前期繰越	100

繰越利益剰余金

3/31 次期繰越	1	3/31 損益	1
4/1 前期繰越	1		

ここでも、学習簿記上、次期繰越という科目名、その日付、金額を朱書きする流儀がある。

ストック項目の勘定の締め切りは以上のとおりである⁶。資産、負債、資本の各ストック項目は、それぞれの勘定口座で期末残高を次期に繰り越すことになる。しかし、それでは、全体としてストックをどれだけ次期に繰り越したのかわかりにくいで、次のような繰越試算表を作成することが多い。繰越試算表は、次期に繰り越すストック項目の残高を集めた一覧表である。

⁵ 原理的にいって、当期の期末と次期の期首のあいだには、いかなる記録もあってはならない。したがって、かつて、ここで「前期繰越」と書くことには、たんに手間を省くだけでなく、内部統制上の意味があった。帳簿に手で記入することがなくなった今でも、期末と期首のあいだの入力を受け付けないようにソフトウェアをデザインするべきであろう。

⁶ これは英米式決算法と呼ばれる簡便法である。簿記検定を受験したりしなければ、実用上は、英米式決算法だけ理解しておけばよい。

繩越試算表

平成 xx 年 3 月 31 日

借方金額	勘定科目	貸方金額
	現 金	
151	借 入 金	50
	資 本 金	100
	繰 越 利 益	
	剩 余 金	1
151		151

図 6 繰越試算表

この繰越試算表に記載されたデータにもとづいて、貸借対照表を作成することができる。この取引例では、図 7 のようになる。ここで、利益剰余金は、企業内に留保されている利益ストック(留保利益)である。

日吉運送店		貸借対照表	
		平成 xx 年 3 月 31 日	
		(単位：千円)	
資 産	金 額	負債及び純資産	金 額
現 金	151,000	借 入 金	50,000
		資 本 金	100,000
		利 益 剰 余 金	1,000
	151,000		151,000

図 7 貸借対照表

以上で、簡単な取引例にもとづいて、簿記一巡の手続きを一通り眺めたことになる。細かい手続きについては、次回以降、詳述するので、ここでは、全体像が大雑把につかめればよい。

ただし、簿記はテキストやノートを読んでいるだけでは、決して身につかない。ある程度は、電卓や算盤を片手に、実際に計算をし、記帳してみる必要がある。次節に、簡単な練習問題を載せておく。

2 練習問題

問題1 日吉運送店株式会社に関する次の取引を仕訳し、総勘定元帳に転記しなさい。

sample

sample

sample

sample

sample

1. 4月1日、資本金200百万円の現金出資を受けて、日吉運送店株式会社を設立した。

sample

sample

sample

sample

sample

2. 7月20日、綱島銀行から70百万円の現金融資を受けた。

5

3. 9月1日、トラックを賃借し、賃借料8百万円を現金で支払った。

sample

sample

sample

sample

sample

10

4. 9月1日、賃借したトラックに保険をかけ、保険料1百万円を現金で支払った。

sample

sample

sample

sample

15

現金

借入金

sample

sample

sample

sample

20

資本金

繰越利益剰余金

sample

sample

sample

sample

25

売上

賃借料

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

支払保険料

損益

--	--

5

問題2 上記の期中仕訳とそれらの転記の結果を表わす合計残高試算表を作成しなさい。

合計残高試算表

平成 xx 年 3 月 31 日

借方残高	借方合計	勘定科目	貸方合計	貸方残高
		現 金		
		借 入 金		
		資 本 金		
		売 上		
		賃 借 料		
		支払保険料		

10

15

問題3 上記の期中仕訳と転記の結果にもとづき、決算手続きを行なって、総勘定元帳を締め切りなさい。

20

問題4 決算の結果にもとづき、損益計算書、繰越試算表、貸借対照表を作成しなさい。

25

30

損益計算書

日吉運送店 平成 xy 年 4 月 1 日から
 平成 xx 年 3 月 31 日まで (単位 : 千円)

5

費用	金額	収益	金額
賃借料		売上	
支払保険料			
当期純利益			

10

繰越試算表

平成 xx 年 3 月 31 日

15

借方金額	勘定科目	貸方金額
	現金	
	借入金	
	資本金	
	繰越利益	
	剰余金	

20

貸借対照表

日吉運送店 平成 xx 年 3 月 31 日 (単位 : 千円)

25

資産	金額	負債および資本	金額
現金		借入金	

30

補論：借方・貸方の由来

借方・貸方という名称は、人名勘定を使っていた時代の名残である。たとえば、綱島銀行から50百万円を現金で借り入れ、大倉山銀行から70百万円を現金で借り入れたとしよう。このとき、

x/x	(借)	現	金	50	(貸)	借入金	50
x/x	(借)	現	金	70	(貸)	借入金	70

5

と処理していたのでは、どこから借りた借入金かわからなくなる。そこで、借入先の名前を使って、

x/x	(借)	現	金	50	(貸)	綱島銀行	50
x/x	(借)	現	金	70	(貸)	大倉山銀行	70

10

とすることが考えられる。

同様に、元住吉商店に30百万円の現金を貸し、武藏小杉屋に90百万円の現金を貸したとしよう。これも、

x/x	(借)	貸付金	30	(貸)	現金	30
x/x	(借)	貸付金	90	(貸)	現金	90

15

としたのでは、誰にいくら貸したのかわからなくなる。そこで、

x/x	(借)	元住吉商店	30	(貸)	現金	30
x/x	(借)	武藏小杉屋	90	(貸)	現金	90

と貸付先の名前を勘定科目に使うことが可能である。(もちろん、財務諸表上は、貸付金、借入金と表示しなければならない。)

実は、歴史的には、取引相手の人名勘定を使った処理のほうが、借入金や貸付金のような抽象的な勘定を使った処理よりも古くから行なわれていたのである。もともと、簿記は貸借関係の記録からはじまったということであろう。当時、仕訳や残高試算表の左側には「自分からお金を借りている人」の名前がずらっと並び、右側には「自分にお金を貸している人」の名前がずらっと並んでいた。そのため、自然と、左側のことを「借りている人」(debtor)と呼び、右側のことを「貸している人」(creditor)と呼ぶようになる。これが、日本語に訳されると「借方」「貸方」となったわけである。

20

要するに、借方・貸方は、自分の借りや自分の貸しについていっているのではなくて、自分からの借り、自分への貸しについていっているのである。よって、直観的には、貸借が反対の感じがすることになる。

25

もっとも、それ以後、抽象的な勘定が発達していったため、もともとの意味合いは薄れてしまった。現代においては、借方は左側のこと、貸方は右側のことと、機械的に暗記してしまってまったく問題ない。

30

不許複製

慶應義塾大学ビジネス・スクール

三美印刷 2009.1 P150